

日本キューバ連帯委員会・クバポン

FORCUBA



キューバ・青年の島 米自給支援プロジェクト vol.5 2015年5月

el proyecto de la producción de arroz popular en el sector campesino de la Comunidad Japonesa en la Isla de la Juventud



キューバにコメを！

ひとりの青年がたどり着いたのはカリブのキューバ。
100余年の歳月を超え、日本人入植者が果たせなかった思い
日本のこころと「米」がつなぐ熱い思いは運命に導かれ海を渡る。





2014年度の6ヶ月滞在・技術指導支援を報告する菊田仁さん。
(2014年10月4日、埼玉・坂戸市)

キューバ稲作支援について (2014年度の取り組みその1)

【時期】

- ・キューバ滞在 2014年4月15日から9月29日
- ・青年の島滞在 2014年4月16日から9月26日

【目的】

- ・日本大使館による「草の根無償支援協力」による機械導入の定着化
- ・田植え等による移植栽培の試験栽培とその結果の確認
- ・籾殻等を活用した堆肥化の検討
- ・ロスパラシオス研究所への視察研修の実現

キューバ稲作支援について (2014年度の取り組みその2)

【派遣経費】

- ・総額 75万円
- ・内訳 交通費 約28万円、保険料 約7万円、下宿費 約25万円
電動自転車 約8万円、その他(交通費・ビザ代) 約7万円

【滞在方法】

- ・ホテルは町から離れていること、食料の確保が難しいこと、キューバの生活を体験することを考えて、日系人等の家に下宿
- ・シロレンドのエドワルド、ヨシコ夫婦 4月16日から6月20日
- ・ヘロナのノボル・タマラ夫婦 6月21日から9月26日

キューバ稲作支援について (2014年度の取り組みその3)

【下宿先の部屋】



エドワルド・ヨシコの部屋



ノボル・タマラの部屋

クバポンによる キューバ稲作支援活動について

青年の島での6ヶ月の取り組み
(2014年4月15日から9月29日)

クバポン会員 新潟県 菊田仁

1 はじめに

私は2014年3月を持って新潟県庁を退職し、キューバでの稲作支援を行うこととして、2014年4月から9月までの概ね6ヶ月係わり、活動することになりました。

ここに至った経過は、クバポンがキューバの稲作支援の可能性を探るため、2008年に調査を開始し、支援対象地域として、青年の島での稲作支援することに決定、2009年から現地調査を始め、2010年以降、具体的な支援に係わり、2011年の秋以降は年2回短期間の訪問を繰り返し、協定の中で2014年から長期滞在による支援を行うことを確認してきました。この約束を履行するためのものです。

2 なぜ、稲作支援なのか

繰り返しになりますが、キューバでなぜ稲作支援が必要なのかです。キューバに訪問している人はご存知ですが、キューバの主食はお米であり、一人当たり年間平均消費量が60kg以上と日本人の平均消費量より多いかもしれません。日本と

違い長粒種（粘らない米の方を好む）を白米で食べるか、黒マメと混ぜて赤飯のように食します。

しかし、自給率は40%と低く、ベトナム、ブラジル、中国等から輸入している現状です。世界的に穀物価格が上昇傾向であり、穀物が逼迫状態となっています。また、自国の主食は自国で賄うことのメリットが大きいことから、クバポンとして、稲作支援を続けています。

また、対象地域として、青年の島を選んだ理由は、政府の許可があること、日系人が多くいること、大学の協力が得られることなどが挙げられます。

3 クバポンの稲作支援の経過

簡単に記述しますが、詳細は「キューバ・青年の島米自給支援プロジェクト」vol. 1～4を参照してください。

【2008年】

- ・4月にキューバへの稲作支援の可能性を探るため、農林省、稲作研究所を訪問
- ・担当から青年の島での稲作支援の支援について、問題は無いとの回答

【2009年】

- ・春にクバポンによる青年の島への稲作支援を決定
- ・11月に訪問団と別に青年の島へ渡り、現地調査を実施
- ・水の確保のため、ポンプ等の支援を望んでいることを確認

【2010年】

- ・6月 再度青年の島へ。現地調査と稲作指導助言の実施
- ・11月 現地作成によるプロジェクト案を検討。日本大使館よる「草の根無償支援協力」の情報を伝える。
- ・12月から支援カンパの実施

【2011年】

- ・3月 ポンプ2台・ホースを輸送
- ・4月 支援プロジェクトを調印、支援物資と支援金を引き渡す。
- ・11月 2014年まで年2回の短期訪問と支援金の追加支援の確認。日本大使館が「草の根無償支援協力」実施することを表明

【2012年】

- ・2月 日本大使館による「草の根無償支援協力」の決定、正式調印。約900万円の援助内容
- ・5月 技術指導訪問、ロスパラシオス研究所

キューバ稲作支援について（2014年度の取り組みその3）

【交通手段】

- ・電動自転車（短距離の移動に活用）
シロレドンドのヨシコの家からアルベルトの田んぼへ
シロレドンドからヘロナへの移動（逆も同様）
- ・定期バス（一定の距離の場合に活用）
ヘロナからフカロ、デマハグア
- ・タクシー（長距離の場合に活用）
ヘロナからメヤ

キューバ稲作支援について（交通手段・電動自転車）



車やバイクは高く、物が売っていない。中国製の電気自転車は800ドル前後で売られている。今回の移動手段に活用。キューバでは免許がいらぬ。25～30キロ走れる。

キューバ稲作支援について（交通手段・定期バス）



ヘロナからシロレドンドの間は1日3本から4本、運賃は安い、遅れたり、故障する。

キューバ稲作支援について（交通手段・自動車）



ロシア製やポーランド製の車が多いが、非常に古い、修理はまず部品の調達、そして屋外で修繕、ノボルの車はポーランド製のフィアット、30年使用。部品が足りずに修理中

キューバ稲作支援について（支援内容・会議）



4月25日、青年の島の大学で取り組み計画を話し合う。



5月12日、クバポン訪問団と一緒に取り組み計画を確認する。

キューバ稲作支援について (状況把握・メヤ地区)



秋に播種した稲は7月に収穫 水不足のため、平均180kg/10aしか収量がなかった。5月に播いた稲も乾燥により生育量が小さい。また、再は種は、7月の雨のため、トラクターが入れず、作業遅れる

キューバ稲作支援について (状況把握・デマハグア地区)



6月の雨が少なく、井戸・ポンプが活用できず、水がないため、栽培できず

キューバ稲作支援について (状況把握・フカロ地区)



6月の雨が少なく、井戸・ポンプが活用できず、水がないため、栽培できず

キューバ稲作支援について (支援内容・シロレンド地区)



【栽培状況】

・秋に播種した稲は雑草が多く、収量は140kg/10a、6月に収穫2期目は7月の雨のため、トラクターが入れず、栽培できず

キューバ稲作支援について (今回の取り組みその4)

【生育状況の把握】



5月21日アルベルトの田んぼで坪刈りの実施、品種 LP5
坪刈り収量(籾穀を含む): 322.5kg/10a
収量構成要素: 穂数273本×一穂籾数84.8粒×登熟歩合75.8%×千粒重24.8g=435kg/10a
穂長21.5cm、かん長62.7cm

職員と連携、堆肥の検討

- ・11月 延長ホースの輸送、海草の堆肥化、木酢液、米粉の加工の検討

【2013年】

- ・4月 ポンプの部品持参、籾穀、鶏糞等の堆肥化の検討、LP研究所への研修提案
- ・11月 雨季の大雨で種籾が腐り生産できない等天候が影響した。メヤでは面積・収量とも増加

4 今回のキューバ稲作支援の活動方法

(1) 時期

キューバ滞在期間は2014年4月15日から9月29日、内、青年の島滞在期間は2014年4月16日から9月26日でした。

(2) 活動目的

滞在期間中の活動目的は下記の4つに絞り、協力者、支援対象者へ説明しました。

- 日本大使館による「草の根無償支援協力」による機械導入の定着化
- 田植え等による移植栽培の試験栽培とその結果の確認
- 籾穀等を活用した堆肥化の検討
- ロスパラシオス研究所への視察研修の実現

(3) 派遣経費

クバポンより総額75万円の派遣経費を頂き、内訳は交通費(飛行機代等)約28万円、旅行保険料約7万円、下宿費(宿代、食費含む)約25万円電動自転車約8万円、その他(ハバナ滞在費、青年の島への飛行機代・ビザ代)約7万円掛かりました。

(4) 滞在方法

外国人が泊まれるホテルは町の中心部から離れていることや食料の確保が難しいこと、キューバの生活を体験することを考えて、日系人等の家に下宿をしました。

具体的には、シロレンドのエドワード、ヨシコ夫婦宅で4月16日から6月20日の間、ヘロナのノボル・タマラ夫婦宅で6月21日から9月26日でした。

5 今回のキューバ稲作支援の支援内容

(1) 農業者等の集まる会議

- 4月25日、青年の島の大学で取り組み計画を話し合う。
- 5月12日、クバポン訪問団と一緒に取り組み計画を確認。

(2) 生育状況の把握

- シロレドンドのアルベルトの田んぼで実施。
- 5月21日坪刈りの実施、品種 LP5
坪刈り収量（籾殻を含む）は322.5kg / 10a、
収量構成要素：穂数273本、一穂籾数84.8粒、
登熟歩合75.8%、千粒重24.8g。穂長21.5cm、
かん長62.7cm

(3) 各地区の状況把握

- メヤ地区：秋に播種した稲は7月に収穫。水不足のため、平均180kg / 10aしか収穫量が無かった。5月に播いた稲も乾燥により生育量が小さい。また、再播種は、7月の雨のため、トラクターが入れず、作業遅れる。
- デマハグア地区：6月の雨が少なく、井戸・ポンプが活用できず。水がないため栽培できず。
- フカロ地区：6月の雨が少なく、井戸・ポンプが活用できず。水がないため栽培できず。
- シロレドンド地区：秋に播種した稲は雑草が多く、収量は140kg/10a、6月に収穫。2期作目は7月の雨のため、トラクターが入れず、栽培できず。

6 今回のキューバ稲作支援の結果

目的に対する結果については下記の通りとなりました。

(1) 日本大使館による「草の根無償支援協力」による導入機械の定着

当初は6月中に入札が行われる予定でしたが、キューバ政府の許可が下りず、9月上旬の許可となりました。そのため、滞在期間中に機械が揃わず、技術支援ができませんでした。なお、2015年1月に訪問した時点では入札が行われ、コロンビアの企業にすることとなったそうです。

(2) 田植え等による移植栽培の試験栽培とその結果の確認

フカロ地区で実施予定でしたが、雨が降らず田植え不可能となったため、シロレドンド地区で8月28日に実施、5ヵ月後の1月に収穫予定となりました。（しかし、その後、放牧中の牛に食われて全滅。確認できず）

(3) 籾殻等を活用した堆肥化の検討

7月17日に精米工場から籾殻をシロレドンドの田んぼへ運び、散布する予定となりました。海藻等の活用は運搬手段の確保が難しいため、当面はストップすることにしました。

(4) ロスパラシオス研究所への視察研修実現

キューバ稲作支援について（今回の取り組みその5）

【生育の障害について】



病気：いもち病、ケイ酸分が少なく、防除をしなため、発生する。特に窒素分が強い場所は発生が多い。
雑草：直播で1回しか除草剤を撒かない為、後半雑草が多い。特にクサネムとヒエが多い。
害虫：周りが草だらけなのでカメムシが多い。防除するといなくなったが、とにかく虫が多い。

キューバ稲作支援について（移植栽培）



・シレドンドのアルベルトの田んぼで苗床を作り、7月29日に育苗用の播種を行う。8月28日に田植えを行う。

キューバ稲作支援について（今回の取り組みその6）

【作業風景】



左から殺虫剤散布、稲刈り状況、出荷した米の検査風景

キューバ稲作支援について（結果その1）

- 1 日本大使館による「草の根無償支援協力」による機械導入の定着化
→当初6月には入札、実際は9月上旬に政府の許可ができる。10月以降に入札が行われ、農業機械が揃うのは1月以降か？
- 2 田植え等による移植栽培の試験栽培とその結果の確認
→フカロ地区で実施予定、雨が降らず田植え不可能。シロレドンド地区で8月28日に実施、5ヵ月後の1月に収穫予定

キューバ稲作支援について（結果その2）

- 3 籾殻等を活用した堆肥化の検討
→7月17日に工場から籾殻をシロレドンドの田んぼへ運ぶ
海藻等は活用は運搬手段の確保が難しいため、当面はストップ
- 4 ロスパラシオス研究所への視察研修の実現
→6月上旬を予定していたが、受け入れる側の宿舍の改築等で実施できず
10月5日に1週間程度実施予定。一緒に行けず残念

キューバ稲作支援について（問題点）

【問題点・反省点】

- 1 4月以降、雨が少なく、雨季に合わせた播種ができなかった
- 2 草の根無償支援協力で導入する機械が期間中にキューバ政府の許可が遅れて、定着化の取り組みができなかった
- 3 交通手段（特に自動車）の確保ができず、頻繁に現地に行くことができなかった
- 4 スペイン語ができないため、うまくコミュニケーションがとれなかった

キューバ稲作支援について（次年度の対応）

- 1 長期間の滞在は不要
- 2 田植え時期での育苗及び田植え状況の把握及び改善（6月頃）
- 3 収穫時点の結果の把握（10月から11月）

写真による青年の島スナップ



ヘ罗纳の教会と町の中心街

写真による青年の島スナップ（交通手段）



豚の出荷にヘ罗纳まで、青年の島では馬車のほうが多い



1954年生のフォード、現役、ただし燃費が非常に悪い。

写真による青年の島スナップ（行事・誕生会）



誕生日を大切にしており、特に小さな子どもの誕生日は家族・親戚・近所の子どもを呼び、盛大に開催する。大人の場合はカルドーサをつくり、ロン（ラム酒）とドミノ、ダンスを行う。

6月上旬を予定していましたが、受け入れ側の宿舎の改築等で実施できませんでした。帰国後、10月5日に1週間程度実施。一緒に行けずに残念でした。

7 今回のキューバ稲作支援の問題点・課題

- (1) 4月以降、雨が少なく、2地区で播種ができませんでした。また、適期に播種ができませんでした。
- (2) 草の根無償支援協力で導入する機械が期間中にキューバ政府の許可が遅れて、導入機械の定着化支援の取り組みができませんでした
- (3) 交通手段（特に自動車）の確保ができず、頻繁に現地に行くことができませんでした。
- (4) スペイン語ができないため、うまくコミュニケーションがとれませんでした。

8 次年度の対策について

長期間の滞在は宿泊先確保の関係もあり、田植え時期での育苗及び田植え状況の把握及び改善（6月頃）収穫時点の結果の把握（10月から11月）で良いと考えられます。

次年度（2015年度）には機械が導入されている可能性が大きいことからこれらの支援を行っていくことになります。

今回（2014年度）は雨季に雨量が少ないでしたが、次年度は適期に雨が降ることを期待し、支援をしていきたいと思えます。

2015年5月記

写真による青年の島スナップ（行事・日本人会）



日系人人会のお盆、墓参りとダンス鑑賞、昼食、他に日系人の子弟による踊り、歌、風呂敷の包み方等を練習し、各種行事で披露している。4、5世になるとキューバ人と見分けが付かない。

足かけ7年 青年の島での稲作支援活動

松矢 文雄 (クバボン)

今年が最終年となりました。皆様のご支援によって活動が継続されてきたことを先ず持って感謝いたします。私は、2008年キューバへの稲作支援を探る友好訪問に偶然同行することができ、初めて青年の島を訪れました。以前にはこの件については何も知らなかったのですが、訪問中に農務省や青年の島の日系人会の意向を伺って、是非支援活動をしたいという気持ちになりました。そして、2009年の春クバボンとして稲作支援を行うことを正式に決定しました。

その後、何度かの訪問を経て、2011年4月にクバボンの代表として現地プロジェクトとの間で、協定書を取り交わすことができました。現地の要望で輸送したポンプを確認し、パソコン等の物資と当面必要な経費を支援金として寄贈しました。また、日本大使館から活用を促された「草の根無償」についても申請が受理されました。



調印した宮澤・青年の島日本人会長(左)、青年の島大学副学長のマイラ・ロンドン氏(中)と松矢事務局長(右) 2011・4・26

そして、2012年2月14日に、在キューバ西林大使(前)が青年の島で草の根・人間の

安全保障無償資金協力「青年の島稲作生産強化計画」の署名式に出席し、NGOムンドゥバットの代表(現地プロジェクト)とで契約調印されました。その際に、「青年の島では、すでに日本キューバ連帯委員会(クバボン)が協力を行っており、今回のプロジェクトがこれらの協力と相乗効果を発揮して、青年の島の稲作の普及・強化に役立つことが期待されます。」と述べられました。(クバボンプロジェクトは2011~14の3年、草の根無償プロジェクトは2012~14の2年が同時並行的に実施されることになりましたが、いずれも2015年現在終了せず、11月頃にずれ込む予定)

これらのプロジェクトが順調に滑り出したと思われたのですが、幾多の困難が立ち現れました。一つはポンプの故障、その他に自然条件、特に天候も大きな影響を及ぼしました。更には、草の根無償の実施がキューバ側(政府?農務省?)の何らかの理由によって遅延し、機械の導入が認められたのが昨年秋でした。「草の根無償」支援は機械等ハードの面での資金援助ですが、クバボンによるプロジェクトでは、ソフト面での支援、意識改革と技術向上を目指しています。菊田氏の幾多の指導訪問によって現地では彼への信頼が増し、彼らの意識改革も進みました。今年は機械の導入と共に一層の展開が期待されます。

一朝一夕には行かないコメ作りですが、青年の島の米自給生産に向けたこのプロジェクトが一定の成果を出し、更なる継続した努力によって目的が達成されることを願っています。(記:2015年5月末日)

CUBAPONは結成20周年の集いに合わせて、 青年の島・日系人会会長のミヤザワ・ノボルさんを日本に招待しました。

経緯——昨年(2014年)、クバボンは結成20周年を迎えました。この間、幾多の友好関係を築いてきました。ここ数年はキューバ青年の島への稲作支援活動を中心に活動してきています。現在、最終段階に入り、稲作専門家菊田会員による長期滞在指導を行っています。

2008年4月友好訪問(団長、君島代表委員)でキューバへの稲作支援の可能性を探り、農業省などを訪問した後、青年の島に渡り、日系人会を中心に稲作支援を含め文化交流などの話を行いました。ミヤザワ・ノボルさんは、その時に日系人会の会長として日系人会の人たちをまとめ、そして、稲作支援においてはクバボンと現地プロジェクトの間に入って中心的に活動してきました。また、昨年日本の外務省より外国において日系人として活動していることに対して表彰を受けました。

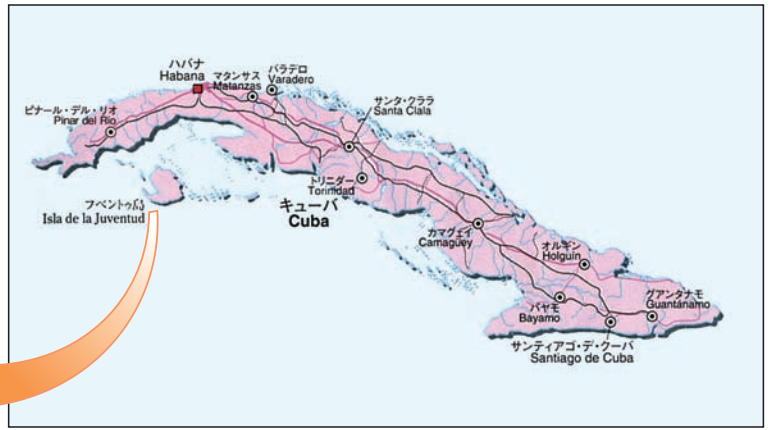
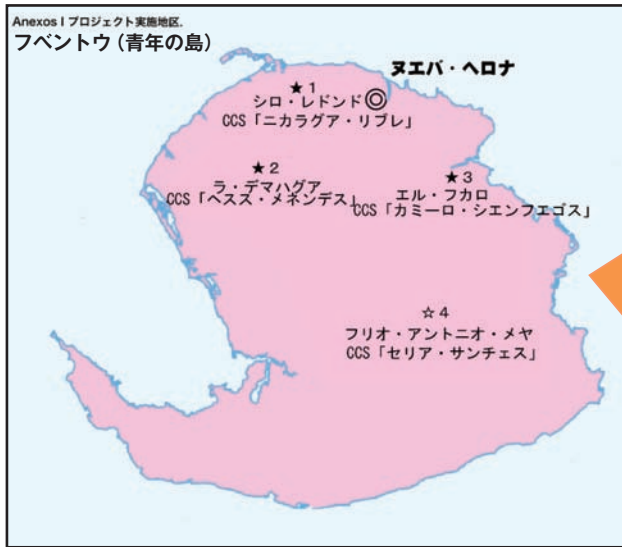
昨年、ミヤザワ・ノボルさんは昨年、青年の島大学の教職を退職されましたが、今も、引き続き、稲作支援プロジェクトの青年の島側のカウンターパートとして友好的な関係にあります。

滞在——20周年の集い(10月4日)の他、両親の故郷長野訪問、従姉妹さんの横浜訪問、菊田さん関係で新潟、坂戸グループで坂戸・東京・伊豆・箱根、キューバを知る会大阪グループで大阪、の約2週間を過ごされました。生まれて初めての日本体験が次の架け橋となれば幸いです。

日本滞在に当たり、関係各位に多大なご協力をいただきました。御礼申し上げます。(詳細はCUBAPONニュース47号)



長野・飯島町の祖先の墓を訪ねる:左



キューバ・トピックス

なぜ、稲作支援を行うのか？

- ・キューバの主食は米 1人当たり年間60kg以上を消費
- ・自給率は40% ベトナム、ブラジル、中国等から輸入
- ・キューバ人の昼、夜の食事は米(長粒種)と黒豆(フリホーレス)と肉、いも類

キューバはどんなところ？

- ・位置 フロリダから南へ180km、カリブ海にある島国
- ・人口 1100万人 ・面積 約11万平方キロメートル
- ・政治体制 社会主義国
- ・主な産業 観光、農業(サトウキビ、葉巻)、ニッケル、医薬品、医者
- ・歴史
 - 1500年代～ スペインの植民地
 - 1898年にスペインに勝利し、1902年にキューバ共和国
 - 1953年に革命戦争が始まり、1959年1月1日に勝利
 - 1990年代まで 社会主義国として、ソ連・東欧諸国と密接な関係
 - 1990年以降 ソ連崩壊後、燃料不足・食物不足
 - 現在 観光に力を入れる、ベネズエラ等中南米の反米国との連携強化

青年の島はどんなところ？

青年の島：スペイン語でisla de juventud.1978年までピノス島
ハバナから飛行機で約1時間、船を利用して約5時間の距離
人口は約9万人、州都はヌエバヘロナ。農業と漁業が主な産業、
日系人家族が約280人住んでいる。

キューバの経済について

- ・平均給料 400～800ペソ≒20～30ドル、年金者は250～400ペソ
- ※キューバでは人民ペソと兌換ペソ(1CUC=1ドル)の2種類の通貨
- ・輸入品は日本と同じ価格、例えばガソリン1L当たり1CUC 石鹸1個0.45CUC、ビール1缶1CUCで売られている。
- ・配給制度は縮小傾向、また職場から食料や衣類が安く提供される。昼食を安く提供。
- ・経済方針の転換、生産性が上がれば給料も上がる制度に転換。現実給料は上がっている。

2015年5月 発行

編集——プロジェクト報告委員会

発行——日本キューバ連帯委員会 東京都新宿区山吹町333 辻ビル405

電話——03-3336-8143 ファックス——03-3336-8079

PORCUBA 米自給支援プロジェクト報告集 vol.5